

だうんとびっくす

まちの話題や出来事をご紹介します

（右）と田中市長（左）。協定を締結した阿部取締役副社長



地域防災力の強化に貢献

市と有限会社日本海商事安来営業所は、6月22日に災害時の支援に関する協定を締結しました。昨年11月、安来市吉佐町に山陰エリアの物流拠点を整備した同社。この協定により、災害時には避難場所や飲料水などの提供、緊急物資輸送や物資集配拠点の運営等の協力を受けることが可能となります。

同社の阿部洋史取締役副社長は「今後も安来市とともに、地域防災力の強化に取り組んでいきます」と話していました。

プログラマーとサポート役の高校生。参加者とサポート役の高校生を見守る



楽しみながらIT技術を体験

ITを体験しその面白さや楽しさを知ってもらおうと、6月13日に「第1回情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座」が同校で行われました。

この日は、画像加工講座とプログラミング講座が開催され、このうち、小学生を対象としたプログラミング講座では、簡単なプログラムを作りペッパー（人型ロボット）を操作。参加した子どもたちは、指示したとおりにペッパーを動かしたり、しゃべる声の高さや速さを変えたりして、自分の考えや思いを伝えていました。自分が作りたいものを作り出した喜びを感じられる貴重な体験となっていました。

今月の一枚



普段は見られないアルテピアの舞台裏を見学する「アルテピア バックステージツアー2021」。参加者は施設の見学に加えて、実際に音響や照明機器などの操作を体験しました。
6月26日：アルテピア

圏域市長会設立10年 市長日記

安来、松江、出雲、米子、境港市の5市で構成する中海・宍道湖・大山圏域市長会。圏域の振興や発展のため、連携して取り組むことを目的に平成24年に設立されました。

6月5日に新しい顔ぶれでの初会合を開催。今年度で設立から10年の節目を迎えるのを機に、新たな「圏域振興ビジョン」の改訂に向け協議していくことを確認しました。



田中市長（中央）と各市長。圏域市長会の会長を務める



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



ホタルの里で環境学習

地域にある自然の豊かさを知ろうと6月4日、吉田交流センターで南小学校4年生の環境学習が行われました。

児童たちは、中尾美樹夫館長から川につながる森林の仕組みや吉田川に生息するホタルについて学習。事前に本で調べてきたことを発表したり、疑問に思ったことを積極的に質問したりしていました。

参加した山中陽翔さんは「水がきれいな川にしかないホタル。これからもこの地域の自然を守っていきたい」と話していました。



参加した児童9人は、吉田川の
水質検査も行いました。

おいしく育て、市特産ドジョウ

やすぎどじょう生産組合が6月9日・10日に、ふ化をさせたドジョウの稚魚を生産者へ引き渡しました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で、県内外の飲食店などへの出荷が進まなかったことから、生産量は約2.4トンにとどまっていた。今年度はコロナの終息を見越して、生産目標を3トンに設定。8月のお盆明けから本格的に出荷する予定です。

渡邊健次組合長は「やすぎどじょうは、骨が柔らかく食べやすいのが特徴。コロナが終息して多くの人に味わってもらいたい」と話していました。



▲ドジョウの稚魚を配布用の袋に移す組合員。

ウォーキングで健康増進

生活習慣病予防など健康づくりをしようと、6月19日に赤江地区健康会議が主催する「第32回あかえふれあいウォーキング大会」が開催されました。

参加者は赤江交流センターを発着として、地区内を周回する約6キロのコースを歩き、汗を流しました。途中、風車のあるなかうみ農村公園近くの中海護岸で休憩をとりながら、出雲河川事務所中海出張所の北川所長から出張所の事業内容や中海の特徴などの説明を聞きました。

参加した柏木巖さんは「蒸し暑かったが、風が出てくると涼しく気持ち良かった」と話していました。

親子連れなど、同地区の住民52人が参加しました。



お披露目の舞台で、ポーズを決める小幡夫婦。

夫婦揃って、安来節踊り師範

温泉旅館竹葉を営む小幡浩三代表と美香女将がこのほど、夫婦揃って安来節の踊りの部門で師範に昇格。6月16日には、同旅館で地元の人や関係者など17人が集まりお披露目会が行われました。

美香女将と踊りとの出会いは、一字川勤名人から「名物女将にならんかね？」と踊りに誘われたのがきっかけ。夫婦で同名人の指導のもと練習を重ね、13年かけて師範に昇格しました。

美香女将は「師範になると道場を持つことができます。今後オンライン道場を開き、後継者を育成していきたい」と新たな取り組みを話していました。

